

野口英世アフリカ賞の受賞者が来町

町を挙げて歓迎

野口英世博士の功績にあらためて光を当て、アフリカの医学研究や医療活動の分野で卓越した業績をあげた研究者を表彰する「野口英世アフリカ賞」。この賞の第2回目となる授賞式が6月1日、横浜市で行われ、翌2日、受賞者らが本町を訪問しました。

受賞者のピーター・ピオット（ベルギー）、アレックス・G・コウティノー（ウガンダ）両博士と両夫人は、猪苗代町長・会津若松市長主催昼食会で前後公町長、鈴木武喜町議会議長らと歓談した後、野口英世記念館を訪れました。

両博士らが同館の前に到着すると、川桁謡真鼓楽会が創作太鼓で歓迎。町内6小学校の児童約60人と三城潟観光協会や町国際交流協会の会員らがベルギー、ウガンダ両国の小旗を振って出迎えました。

歓迎セレモニーでは、野口博士の母校である翁島小の代表児童4人が花束を贈り、前後町長

と野口英世記念会の高添一郎会長が歓迎のあいさつを述べました。

ピオット博士は児童らに温かいまなざしを送り「博士は多くの人々の模範だった。この中から第2の博士が誕生することを願う」とあいさつ。コウティノー博士は「小旗を振って出迎えてくれたことに感激した。心温まる歓迎に感謝したい」と述べました。

児童らは全員で「野口英世の歌」を披露した後、両博士と握手を交わし、記念撮影するなどして交流を深めました。

引き続き、両博士と両夫人は館内を視察。野口博士の生家や展示品などを見て回り、幼少時代に思いをはせました。

視察後、受賞者らは野口英世至誠館で歓談し、熊倉宗久社中の会員らによりお茶が振る舞われました。

その後、受賞者らはたくさん

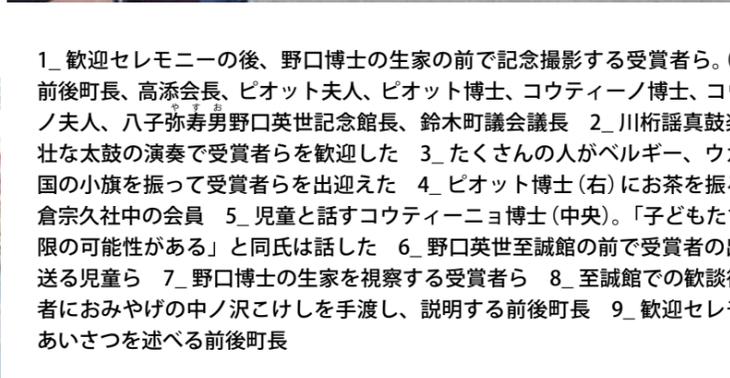
特殊切手「第2回野口英世アフリカ賞」を発行

日本郵便は、第2回野口英世アフリカ賞の授賞を記念して、特殊切手「第2回野口英世アフリカ賞」を発行しました。発行日の5月31日には野口英世の里郵便局などで初日印のサービスを実施。切手を求める人でにぎわった同局には、ご当地キャラクターの「ヒデオくん」も駆け付け、PRに一役買いました。

特殊切手を町に贈呈

日本郵便東北支社は6月17日、町に特殊切手「第2回野口英世アフリカ賞」を贈呈しました。同支社の渡辺満郵便局本部営業部長、佐藤和男郡山郵便局長、佐藤賢之介県西部地区連絡会統括局長旭田郵便局長、五十嵐恵子野口英世の里郵便局長、佐藤孝二猪苗代郵便局長らが町役場を訪れ、前後町長にシートと表紙を手渡しました。

写真左_前後町長(右から2人目)に切手などを手渡す渡辺部長(同3人目)と同席した(左から)佐藤孝二、佐藤和男、佐藤賢之介の各氏。右端は五十嵐氏
写真下_特殊切手の発行日、野口英世の里郵便局には多くの人々が訪れた。ヒデオくん(右から2人目)も登場した。



1_ 歓迎セレモニーの後、野口博士の生家の前で記念撮影する受賞者ら。(左から)前後町長、高添会長、ピオット夫人、ピオット博士、コウティノー博士、コウティノー夫人、八子弥寿男野口英世記念館長、鈴木町議会議長 2_ 川桁謡真鼓楽会の勇壮な太鼓の演奏で受賞者らを歓迎した 3_ たくさんの人がベルギー、ウガンダ両国の小旗を振って受賞者らを出迎えた 4_ ピオット博士(右)にお茶を振る舞う熊倉宗久社中の会員 5_ 児童と話すコウティノー博士(中央)。「子どもたちには無限の可能性がある」と同氏は話した 6_ 野口英世至誠館の前で受賞者の出発を見送る児童ら 7_ 野口博士の生家を視察する受賞者ら 8_ 至誠館での歓談後、受賞者におみやげの中ノ沢こけしを手渡し、説明する前後町長 9_ 歓迎セレモニーであいさつを述べる前後町長

